

第1回 第3期大阪市スポーツ振興計画策定にかかる有識者会議 議事要旨

○委員会の概要

日 時：令和7年12月4日（木）16時00分～17時30分

場 所：大阪産業創造館 12階会議室

出席者：

【委 員】岡崎委員、菅委員、山村委員

【大阪市】林スポーツ部長、森本スポーツ課長、岩槻スポーツ事業担当課長、
西浦スポーツ施設担当課長、城戸大阪マラソン担当課長、
濱武スポーツ課長代理

○議題

- （1）第2期大阪市スポーツ振興計画の進捗状況について
- （2）第3期大阪市スポーツ振興計画策定に向けて

○会議要旨

- （1）第2期大阪市スポーツ振興計画の進捗状況について

大阪市からの説明に対し、各委員から以下のとおり意見があった。

〔主な発言内容〕

- ・スポーツ実施率に関するアンケート結果について、国と大阪市で差が見られるが、それぞれの回答者にとって何をスポーツとして捉えるか違いがあると思われ、実態はそれほど乖離していない可能性がある。
- ・今後の方向性を検討するにあたって、国内の政令市等に加えて、大阪と類似した規模や環境の海外の都市と比較検討することも重要。
- ・子どもの頃にスポーツに触れる機会および指導者の育成が重要。
- ・これまでに様々な事業が実施され、一定の効果があったと考えている。それらをさらに多くの方に周知するためには、情報発信、特にデジタルツールを活用した発信が重要。
- ・スポーツの垣根を下げ、興味を持つ「きっかけ」から「習慣化」へつなげるシームレスな取り組みが重要。

- （2）第3期大阪市スポーツ振興計画の策定に向けた方向性

第3期大阪市スポーツ振興計画の策定に向けた方向性について、各委員から以下のとおり意見があった。

〔主な発言内容〕

- ・実施率向上に向けては、実施できる環境の整備が重要。自宅や街角などで気軽にできるスポーツや、仕事中の休憩時間などにできる簡単な体操のようなものなど

を大都市の特性を考慮したスポーツとして打ち出してはどうか。

- 育児や家事などもかなりの身体活動を伴うので、これらをスポーツとして捉えるという考え方もある。日常生活を通じて既にスポーツに取り組んでいると気づいていただくことで、スポーツの入り口を広くすることがスポーツ実施率の向上につながる。
- 若い世代に対しては、アニメやeスポーツなどはスポーツへの関心を高める方法として有効。
- 障がいをお持ちの方、外国籍の方などが取り組みやすいインクルーシブな施策に第3期では力をいれてはどうか。
- スポーツの入り口を広く開くことが重要。子どもから大人まで、それぞれの世代が日常生活においてどのように取り組めるのかというインクルーシブでありかつシームレスな取組みが重要。